



ふじみ野市



文化財だより

発行日 令和3年3月15日

発行者 ふじみ野市教育委員会

社会教育課文化財保護係

TEL 049-220-2088

FAX 049-261-5100

bunkazai@city.fujimino.saitama.jp



平成26年4月満開の桜と旧大井村役場

市内文化財の紹介

大井小学校敷地内に建つ「旧大井村役場」は昭和12(1937)年に建設され、コンクリートの外壁や2階に設置されたテラスなどが特徴の洋風木造建築の建物です。当時「モダン庁舎」と呼ばれ、同年5月8日に行われた落成式の様子は『東京日々新聞』に写真入りで報道されました。

創建当時の壁色はベージュ色で、窓枠は薄いグリーン色に塗られ、かなり明るい色調だったそうです。窓は和風建築とは全く違う「外開き窓」や「横軸回転窓」などが使われ、ことさら「ハイカラ」なイメージを当時の人々に与えていたようです。このように役場としての空間は

旧大井村役場

洋風に作られていましたが、用務員室や職員が休憩する裏方の場所は畳敷きで和風に作られていました。村の『象徴』としての庁舎の裏に、普段通りの生活様式が取り入れられている点が大変興味深い建物です。

平成14(2002)年には国の登録有形文化財に登録されました。



所在地：苗間34-6

・ふじみ野駅西口

徒歩15分

・東武バス

大井循環南コース

上苗間バス停下車

徒歩2分

※内部公開については
お問い合わせ下さい。

調査報告 武蔵野のサツマイモ保存穴

近年、富の川越芋と呼ばれ、三芳町を中心に生産されているサツマイモですが、かつてはふじみ野市（当時は大井村、大井町）でも盛んに作られていた作物でした。

市内大井武蔵野の農家Y氏宅の自宅内に、サツマイモを生産していたころ使っていた「穴蔵（アナグラ）」が残されているとのことで、令和2年9月14日に穴蔵を見せていただきました。

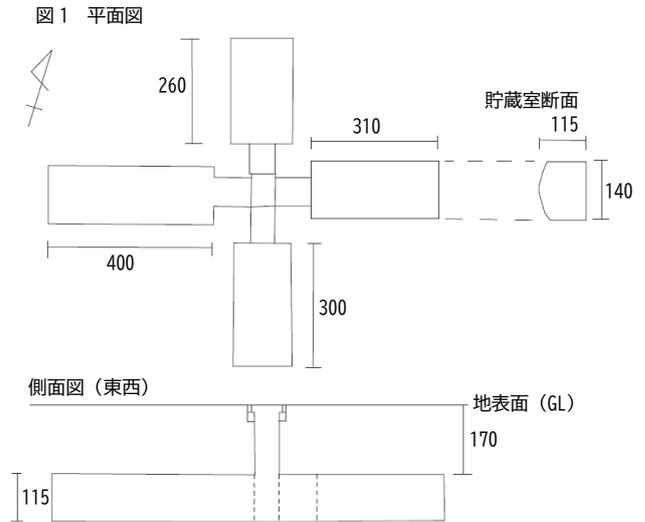
Y氏は現在も農業を営んでおり、今はカブやホウレンソウなどの農作物を作っています。昭和40年代までは父と一緒にサツマイモ作りを行っていたそうです。今回紹介する穴蔵は収穫後、出荷するまでの間、サツマイモを保管しておくために造られたものだそうです。

Y氏によれば、同じような穴は3つあり、残っているこの穴は最も浅いものとのこと。作られたのは昭和の初め頃で、当時は機械など無く、全て人力で掘ったとのこと。Y氏によると最も浅い穴という事ですが、地面から穴の底までは3m、地面から天井までは1.8m程度の深さがありました。

調査当日の外気温は29.1℃でしたが、2m近い土の天井厚を持つ穴蔵の内部は25.5℃と約3.6℃の温度差がありました。夏季に調査を行ったため、この様な結果でしたが、冬季ではまた違った結果になると考えられます。

寸法などは図1のとおりですが、入口部分のみコンクリート枠で補強されており、縦坑（たてあな）も含め、内部は土を掘り抜いた素掘り。縦坑を降りた貯蔵室には、アーチ型の天井部がありますが特に補強の梁（はり）や土留めなどは設けられていませんでした。

補強が設けられていないにもかかわらず状態は良好で、半世紀以上たった今でも天井や壁に大規模な崩落は無く、掘られた当時の様子を残



しています。

類似した構造の施設としては、中世頃から江戸時代にかけて、関東地方を中心に作られていた地下式坑（ちかしきこう）があります。地下式坑の構造は立坑を掘り、そこから横に掘り進み、主室と呼ばれる地下室で構成されています。

地下式坑の役割ははっきりしていませんが、食料や貴重品を収めた貯蔵穴説、埋葬・宗教施設等複数の説が提唱されています。

今回調査したY氏宅の穴蔵は、数百年に渡る先人達の知恵が形となって残ったものと言えるでしょう。

電源も動力もいらない省資源の貯蔵穴の価値をもう一度見直してみるのもよいでしょう。

文化財保存活動の紹介

～ほうきづくり友の会～ 代表 竹内 香

平成29年度に市が主催したほうきづくり体験指導者養成講座に参加した有志が集まり、平成31年4月に「ほうきづくり友の会」として活動を開始しました。



・会の目標

- ①ほうき作りの技術の継承
- ②子どもたちへのほうきの文化の継承
(材料栽培からほうきづくりの体験まで)

・活動内容

材料のホウキモロコシの栽培と収穫
ほうき作りの会員研修の実施
体験学習の開催

市内2か所の畑で材料となるホウキモロコシの栽培を行っています。また、東台小学校3年生と一緒にホウキモロコシの栽培からほうきづくりまでを地域学習の一環として行っています。



問合せ先：文化財保護係 049-220-2088



つくってみよう!

ふじみ野の食文化

さつまだんご

調時間 30分～40分



サツマイモ栽培が盛んだったころ、おやつと言えば「さつまだんご」か「蒸かしいも」でした。やさしい甘みが味わえます。

●材料 (6個分)

さつま粉*	100g
お湯	100cc
サツマイモ	1本
塩	少々



●作り方

- ①サツマイモを輪切りにし、塩水につけ、あく抜きをします。
- ②あく抜きが終わったサツマイモに塩を少々ぬります。
- ③さつま粉に熱湯を加え、菜ばしでまぜ、まとまってきたら手でこねます。
- ④ ③がまとまったら6等分し、②のサツマイモをくるみます。
- ⑤蒸し器で約20分間蒸してできあがり。



*さつま粉はサツマイモをスライスし、干したものを粉にしますが、市販の粉を使う場合、サツマイモのでんぷんを「さつま粉」として販売している場合がありますので注意してください。



学校展示室から

西原小学校文化財展示室の 開室準備を進めています

西原小学校の普通教室棟3階の1教室を、文化財展示室として児童のみなさんの学習で使ってもらえるよう、開室準備を始めています。

毎週水曜日の午後2時から、文化財展示室ボランティアの皆さんと資料館職員と文化財保護係職員が作業をしています。

● 原分館で資料調査を行いました

令和2年10月24日(土)に武蔵野町会役員の方々、文化財展示室ボランティアの皆さんと職員で、分館倉庫で保管されていた祭り用具などの調査を行いました。

今回確認できたのは、昭和40年頃までてんのうさま天王様のお祭りです。使っていた「子どもみこし」や「万灯」、お囃子の道具を入れていた「長持」、村の人たちがお祝い事などで集まって食事をした時に使っていた「お膳」などです。これらの資料はきれいに掃除をして展示し、児童の授業で活用できるようにする予定です。



上：子どもみこしと万灯の掃除／中：原地区のお囃子(はやし)道具が収められていた長持(ながもち)／下：分館倉庫の道具出しに分館役員の方々に協力いただきました。

●文化財日誌 (令和2年11月～令和3年1月)

- 11月11日 西原小文化財展示室開設事前調査
- 11月13日 令和2年度第2回文化財保護審議会
- 11月17日 さぎの森小学校学校運営協議会出席
- 11月18日～西原小学校文化財展示室準備開始
(毎週水曜日午後)
- 11月20日 文化財保存活用地域計画研修会参加
- 12月3日 入間地区文化財担当者会議出席
- 12月14日～旧回漕問屋江戸屋穀藏調査

市内の文化財・遺跡情報が満載

遺跡情報システム

遺跡情報、指定文化財、石造物、神社仏閣などの場所や情報を検索できます。

▼2021年1月アクセス数868件
(昨年比+283)



近場で楽しもう！文化財ガイド

(表)



(裏)

